

—マラキ書3章・19-20a、2テサロニケ3章・7~12、ルカ21章・5-19—

(そのとき、)ある人たちが、神殿が見事な石と奉納物で飾られていることを話していると、イエスは言われた。「あなたがたはこれらの物に見とれているが、一つの石も崩されずに他の石の上に残ることのない日が来る。」そこで、彼らはイエスに尋ねた。「先生、では、そのことはいつ起こるのですか。また、そのことが起こるときには、どんな徴があるのですか。」イエスは言われた。「惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『わたしがそれだ』とか、『時が近づいた』とか言うが、ついて行ってはならない。戦争とか暴動のことを聞いても、おびえてはならない。こういうことがまず起こるに決まっているが、世の終わりはすぐには来ないからである。」そして更に、言われた。「民は民に、国は国に敵対して立ち上がる。そして、大きな地震があり、方々に飢饉や疫病が起こり、恐ろしい現象や著しい徴が天に現れる。しかし、これらのことがすべて起こる前に、人々はあなたがたに手を下して迫害し、会堂や牢に引き渡し、わたしの名のために王や総督の前に引っ張って行く。それはあなたがたにとって証しをする機会となる。だから、前もって弁明の準備をするまいと、心に決めなさい。どんな反対者でも、対抗も反論もできないような言葉と知恵を、わたしがあなたがたに授けるからである。 —ルカ21章—

### 年間第33主日

#### 「試練は『証し』を

#### する機会」

善い師匠は、弟子入りしてきた者に、自分の持っている技術を、すべて教えて指導しようとしません。

イエスに弟子入りした私たちに、師匠であるイエスが教えたことは、私たちがどんな試練にあっても、師に従いきり、師の技術を学び取ってくれる人になることでしょう。

イエスが持つておられる技術とは、いかなる苦難も厭わず、十字架に登る術ですから、弟子入りした私たちがイエスから学ぶ取る事とは、十字架をくぐり抜けて、イエスの復活に預らせていただくことに他なりません。

御利益宗教を夢見ている者には、この、試練に立ち向かわせるキリスト

教は、厳しく残酷で、決して快いものとは思えないでしょう。聖堂正面の十字架像に目を背ける園児の母親に慮って復活のキリスト像に取り換えた教会を見受けます。

片や、かつて、「なんでこのわたしに！」と吐き捨てるほどに試練に見舞われていた信者がいました。よそ目にも、確かに気の毒としか言いようのない不幸の中にこの人は置かれて、潰れるか見えませんでした。

数年後、出会った時、この人は、以前とは見聞違うほどの『信仰の人』になっていて、こんなことを私に語ってくれたのです。

「寂しさは残っていませんが、今、私は神に感謝の心でいます。あれらの事がなかったら、私にとって人生、本当に大切なことが何であるかを知らないまま死んで逝く親で

あったでしょうから」と。試練をくぐり抜けた人にして初めて口にできる「証し」の言葉に触れた思いでした。

ミサの典礼は、今、イエスの宣教活動の結びにあたる終末に入り、いつか来る、私たちの人生の終末と、世の終わりについて考えさせています。

いずれにせよ「終末」には大きな苦し、すなわち様々な困難、そしていわれのない大迫害を覚悟しなければならぬ。しかし、これらにおびえてはならないのです。この時こそ、それらは信仰者にとって「証し」をする機会となり、イエスに弟子入りした真の弟子にはイエスが弁明者、聖霊を伝授してこの試練をくぐり抜けさせてくださるからです。

2022年11月13日

主任司祭 昌川信雄